

基礎演習A

日本人はどのようなお守りを持つのか

国際文化学部 1年
学籍番号:W13

はじめに

日本人は何かを願うとき、お守りを買ったり自ら作ったりする。日本で生活をしていれば、布で包まれている“お守り”を見たことがある人は多いだろう。なぜ日本のお守りは布で包まれているのか、また日本人がお守りを欲しいと思う理由は何だろうか。

私が考えるお守りが布で包まれている形態であるのは、持ち運びやすい形であり簡単な材料で自ら作ることが出来るためだと考える。またお守りを欲しいと思うときは、何か目に見えない超次元的存在に頼るときだと考える。

私は今回、文献とアンケート調査から得た情報を元に日本人がお守りを持つ理由を述べたいと思う。

お守りとは

“お守り”という言葉が辞書で引くと「身につけていると危機から逃れることができると信じられているもの」(大辞林)とある。このように“お守り”という言葉が持つ意味だけではある個体を指しているわけではない。お守りの言葉の意味と同じような意味を持つ言葉として“護符”という言葉がある。この言葉の意味は「神仏の名や形像、種子、真言などを記した札。身につけたり壁にはったりして神仏の加護や除災を願う」(大辞林)とあり、大抵の人が“お守り”と言われて想像する形態はこの護符が中に入った守り袋だ。

お守りの歴史

現在、お守り・護符の明確な起源は分かっていない。歴史学者の千々石到は、護符の起源についての説は三つあると述べている。「一つ目は、固有信仰において既に存在していた説、二つ目は、道教の靈印・付録に倣ったとする説、そして三つ目は、平安時代以降の仏教行事に由来するとする説」(千々石到、2010)だ。これら三つの説のうち、考古学的な発見などから有力視されているのは、二つ目の道教による影響だというものだ。また服飾学者の福田博美は、懸守という形のお守りが平安時代には見ら

れると述べていることから、お守りは平安時代頃には誕生していたものと考えられる。一般民衆がお守りを持ち始めた時期を考えるとすれば、鎌倉時代といえるであろう。この時代に武士という職業が生まれ、戦が続く世の中になってくる。そうした時代背景から、民衆の間で仏教思想が浸透していき、寺社にお参りするという習慣が根付いていった。また、戦から生還できるようにお守りを兵士に託し、無事を祈った。

お守りの形態・種類



お守りの形態を想像したとき、頭の中で浮かぶイメージはこのようなものではないだろうか。右の写真は、私が所持している奈良県大神神社のお守りである。縦7cm×横3.5cmという掌に収まるサイズである。社寺などから拝受できるお守りはこのような形態のものが多い。

社寺によるお守りの形態や種類の違いがあるのかといったことを調べるため、奈良県桜井市にある大神神社と滋賀県大津市にある石山寺で調査をしてきたが、布にプリントされている模様と名前は違うが、視覚的に見る形態に大きな違いは見られなかった。

種類の違いとしては、大神神社は「芸事上達」「交通安全」「良縁成就」「金運上昇」「学業成就」「健康」「災難厄除」「開運招福」の八つに分類され、石山寺は「御守り」「恋守り」「健康守り」「安産守り」の四つの種類のお守りが置いてあった。神社のお守りは分類分けが細かく自分の願いにより近いお守りを選ぶことが出来る。しかし、寺は本尊が持つ力やその力からどのような救いが得られるかが違うのでお守りの種類は多くはない。これらお守りの種類は、各寺社に祀られている祭神や本尊の違いによるものが大きいということが分かった。

お守りを持つ意味

今回私は、なぜ日本人がお守りを持つのかを調べるため、友人12名にアンケートに答えてもらった。アンケート回答方法は、主にインタビューをして答えてもらった。

質問は計四問で、友人は全員1994年～1995年生まれの女性である。

1. お守りを現在いくつ持っていますか。

0個	3人	4個	3人
1個	0人	5個以上10個以内	2人
2個	1人	10個以上	1人
3個	2人		

2. お守りを買う目的はなんですか。(回答者の答案した原文まま)

- ・ 神社(買う場所)が有名だからご利益がありそう、また記念に
- ・ 買って安心するため
- ・ 神社で売っていたらご利益がありそうだから
- ・ 願いが叶うと思うから
- ・ 買ったら心強いから
- ・ 神頼み
- ・ 願いを叶えるため
- ・ ご利益にあやかりたいのと若干の心の支え
- ・ 大体は受験とかの学業成就の願掛け
- ・ 願掛け、心の支え
- ・ 学力を上げてもらうため
- ・ 精神的な支えを得るため

3. お守りを作ったことはありますか。

ある・・・7人 ない・・・5人

4. 今年お守りを買いましたか。

買った・・・4人 買ってない・・・8人

お守りを買った人は、自分のために2人で、他人への贈り物が2人いた。

また買ってないが、他人からもらったと答えた人が1人いた。

これらのアンケート結果から分かったことは、12人中9人がお守りを所持しているということだ。今回の調査では年代や性別に偏りがみられるため、日本人という括りで特定するにはまだ早いだが、比較的若い人々の中でお守りを所持している人は多いということがこの結果から分かる。お守りを買う目的を聞いた答えを大きく2つに分けるとしたら、「御守りの存在は精神的な支えになっている」ということと「神の存在を

信じ、その超次元的な力を借りたい」ということだ。この二つの理由こそ、日本人がお守りを持つ理由ではないだろうか。またお守りを持つことはその名の通り自分自身を守ってくれるだろうという認識を全ての人が持っていた。

今回のアンケートでは、半数近くの人がお守りを自ら作ったことがあると答えた。これは、寺社などで拝受することが重要ではなく、お守りを作る自分自身が願いを込めながら作ることが重要であると考えているためではないかと思う。

最後の質問である「今年お守りを買ったか」に対する返答は、買ってない人が買った人を倍上回る結果となった。この質問で買ったと答えた4人のうち2人は、他人への贈り物として買ったと答えた。また買ってないが他人からもらったと答えた人が1人いた。この三番目と四番目の質問から、お守りは贈り物としても機能しているということが分かった。

世界の似た形態のお守り・信仰

図1



図2



左のお守りは、中央アメリカにあるグアテマラ共和国のお守りである。このお守りは、丸い形をした袋の中に六体の小さな人形が入っている。このお守りは、「悩みごとや心配ごとがあつて眠れない時、そのひとつを取り出して打ち明け、枕の下に置いて一晩眠ると問題が解決している」（コロナ・ブックス、1999）というものであり、日本のお守りの内容は異なっているが、守り袋という点は似ている。

日本だけでなく、世界でも護符信仰は存在する。護符の起源の2つ目の説は中国の影響だということから分かるように、中国にも護符信仰は存在する。またタイの考古学者のプリーチャーは、タイにも、護符信仰は存在するという文献を発刊している。護符信仰は、様々な国で存在し、今もなお信仰されて続けている。

まとめ

日本のお守りが、布で包まれているのは中に入っている護符が理由である。護符とは、先述したように神仏の言葉が書かれているお札だ。そのお札を肌身離さず持つことで、神仏のご加護を受けられると古来の日本人は考えた。そして、護符は大切なものなので守り袋で大事に保管していた。お守りから見える日本人の姿としては、潜在意識の中に神仏の存在があり、またその存在が心の支えとなっていたり、願いを叶えてくれるものとして考えられているということだ。そうした考えから日本人はお守り

を持っている。

八百万の神々を祀る神社と、仏を祀るお寺で拝受できるお守りが、視覚的形態が同じものであるということは不思議なものである。神であれ、仏であれ、超次元的存在に頼りたくなるほど日常生活を送ることは大変なものである。そして、お守りが今現在もあるということは、古来の人も現代の人も本質的なものは変わらず生活を送っていたということが分かった。(3214字)

引用文献

・千々石到 (2010) 「三 日本護符の起源」千々石到『日本の護符文化』弘文堂 pp38-39

・コロナ・ブックス (1999) 「グアテマラ発お守り」(進藤幸彦 訳) コロナ・ブックス『世界の不思議なお守り』平凡社 pp26-27

参考文献

- ・学習研究社 (1993) 『陰陽道の本』学習研究社
- ・下出積與 (1997) 『日本の古代の道教・陰陽道と神紙』吉川弘文館
- ・デズモンド・モリス (2001) 『世界のお守り大全』(鏡リュウジ) 東洋書林
- ・光村推古書院 (2005) 『京都のお守り手帖』光村推古書院株式会社
- ・林 淳 (2005) 『近世陰陽道の研究』吉川弘文館
- ・福田博美 (1986) 「守り袋の変遷－懸守から胸守へ－」文化女子大学研究紀要編集委員会 『文化女子大学研究紀要』 pp65-71
- ・荒川 歩・村上幸史 (2006) 「「お守り」をもつことの機能:贈与者と被贈与者の関係に注目して」日本社会心理学会 『社会心理学研究』 pp85-97
- ・神社.com (<http://www.jinjya.com>)
- ・プリーチャー・ヌンスック (2009) 『タイを揺るがした護符信仰』(加納寛) 第一書房

図版転載文献

図1・2: コロナ・ブックス、進藤幸彦 訳 (1999) 「グアテマラ発お守り」コロナ・ブックス『世界の不思議なお守り』平凡社 pp28